

R-18

DRAGON ROAD 3

10th anniversary

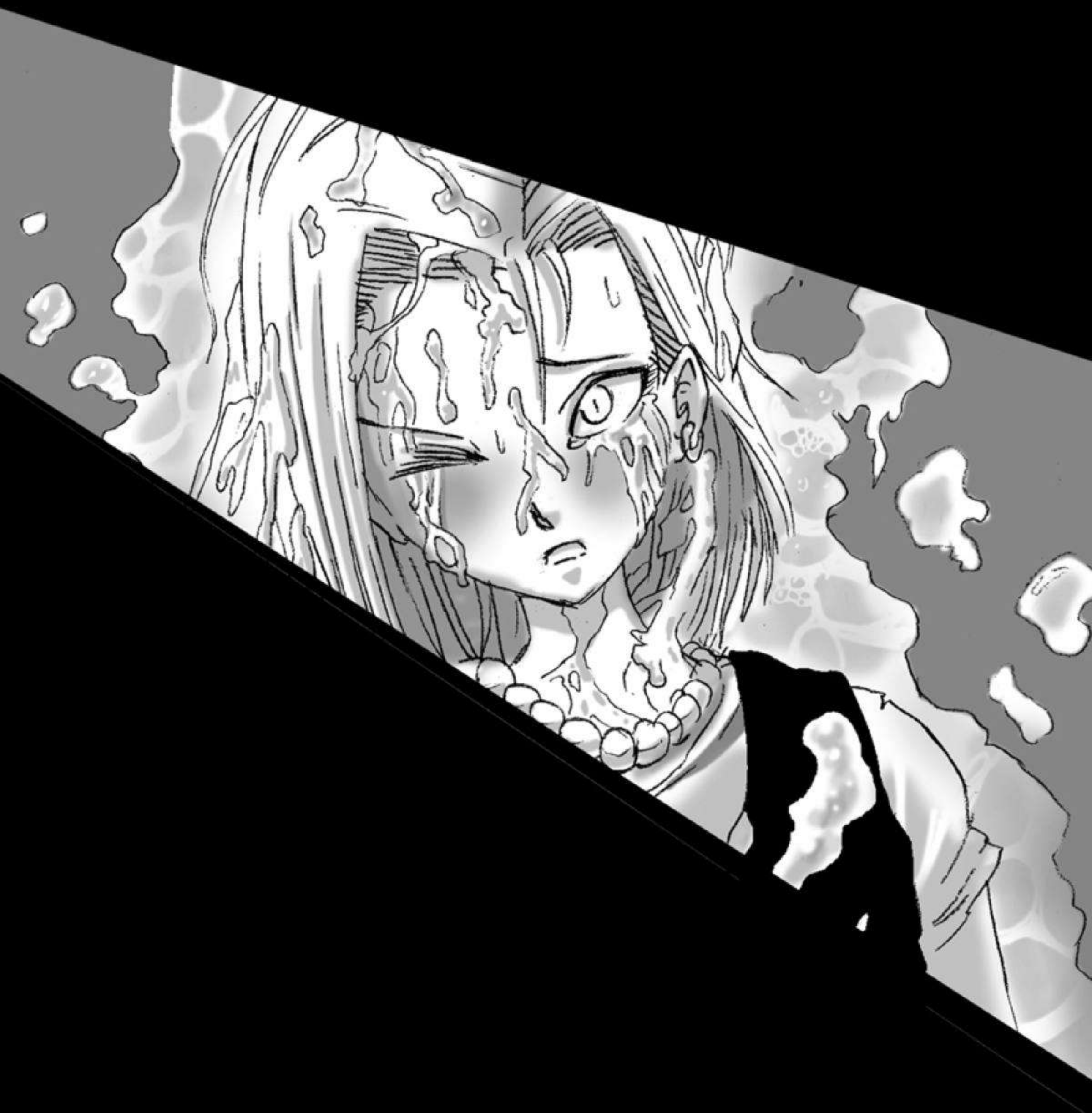


文田の娘は
おれに怒りました!



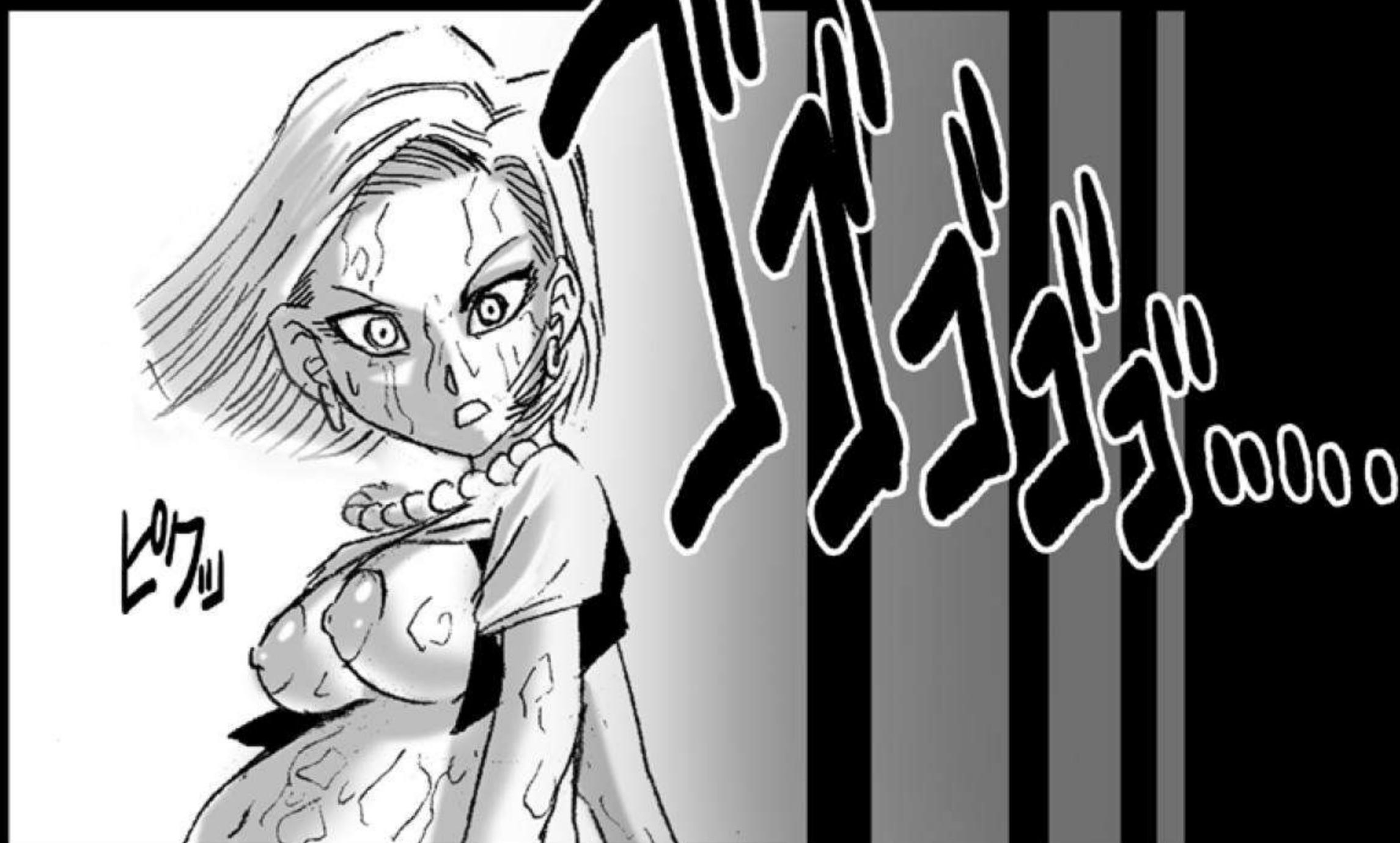
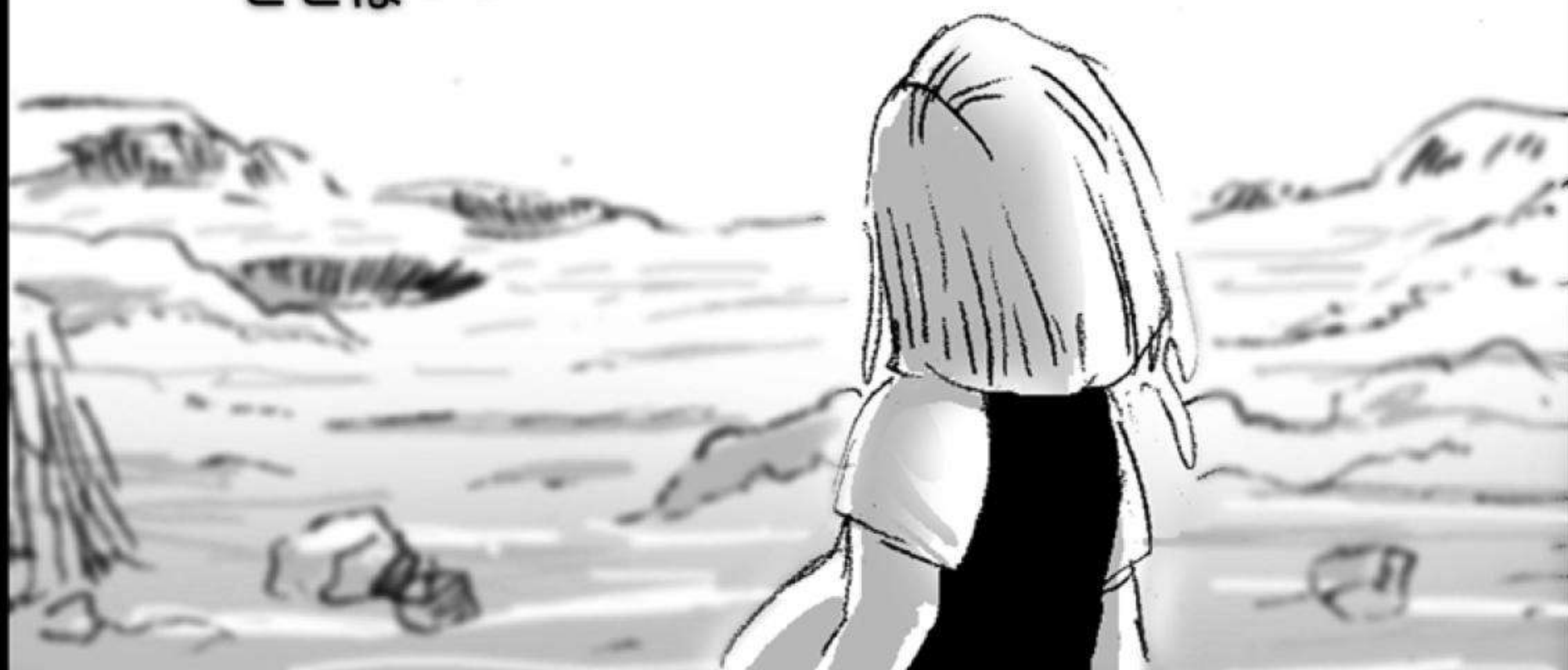
消えかける意識の中。瞼の裏に光が差し込んだ・・

それは、「希望」という言葉以外に思いつかない程・・
強く・・明るく・・
そして、優しい光だった。



ここは・・・

!?





あ・・あ・・

私を見るな・・

逃げ出したい・・・

今すぐに、この場から離れなくちゃ・・



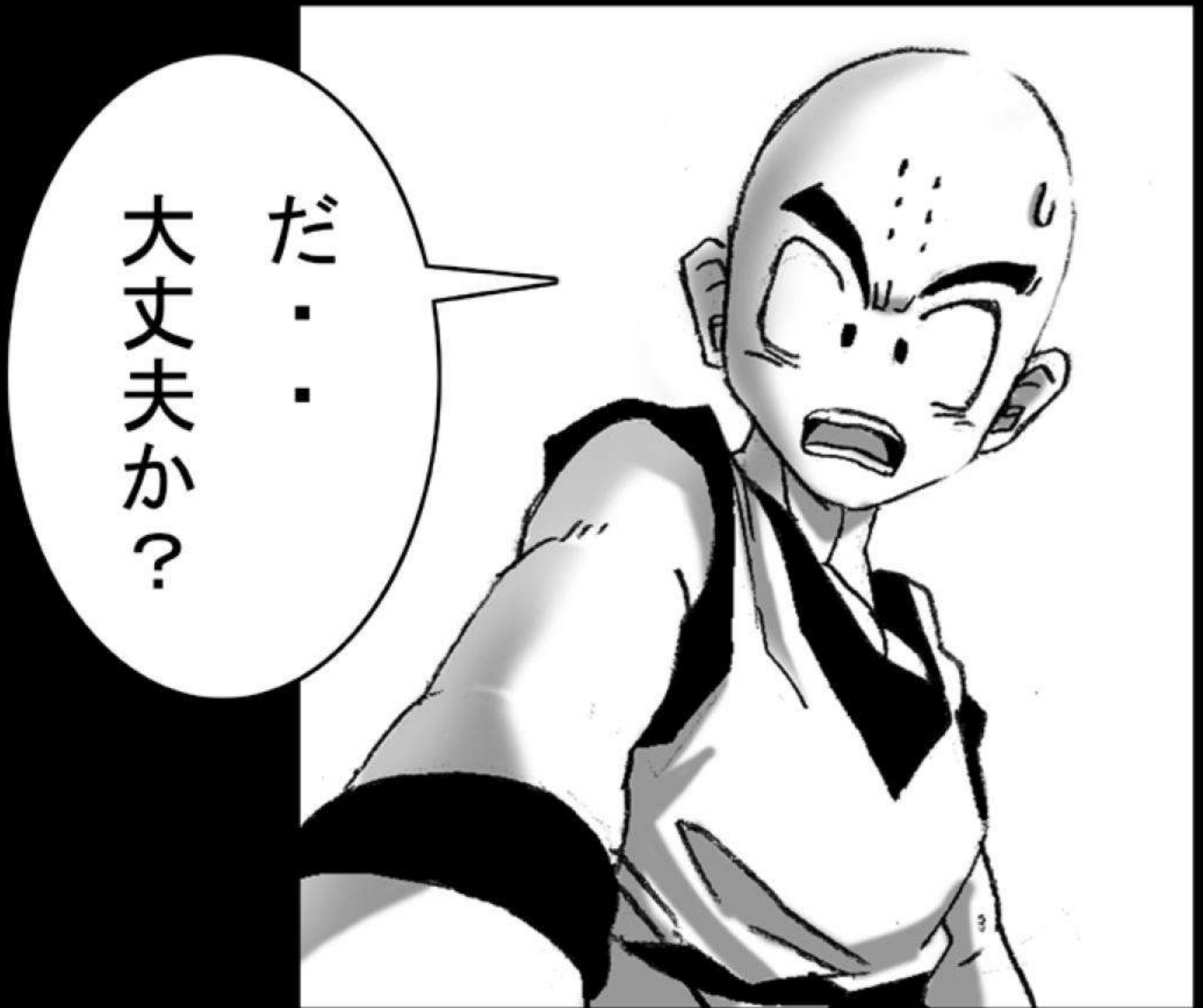
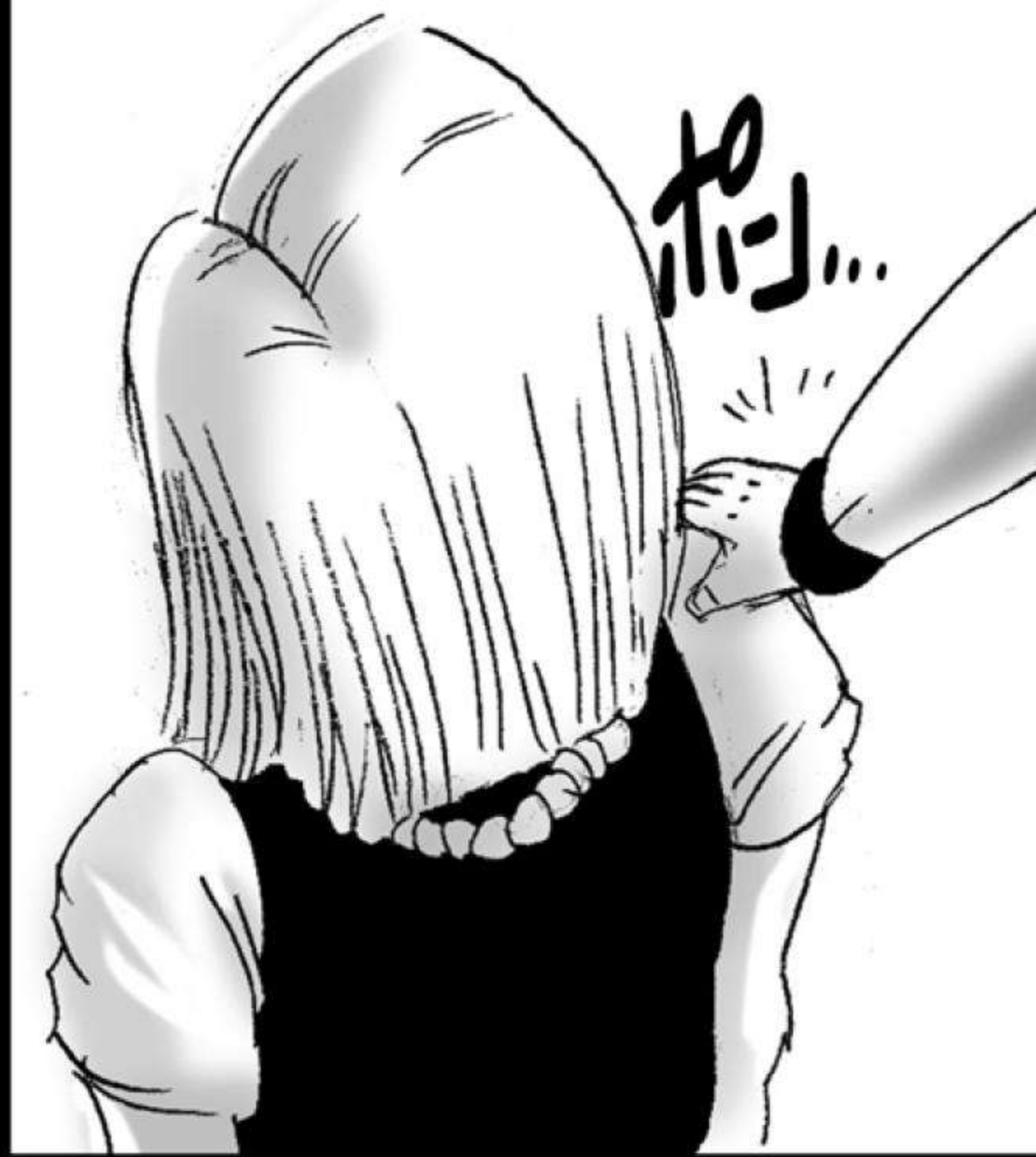
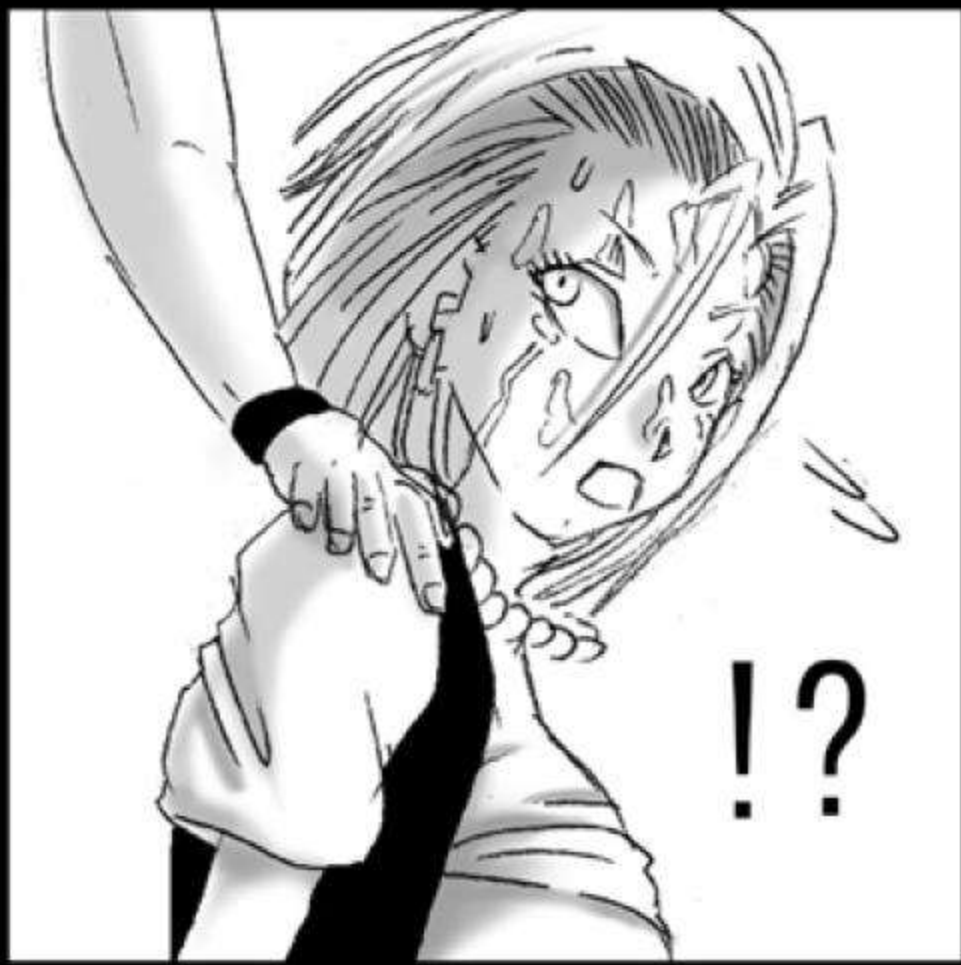
くっ!

ズキッ!!!

ちくしょう・・

腹の中はそのままかよっ・・





キュッ

お前は...

...

ワッ...





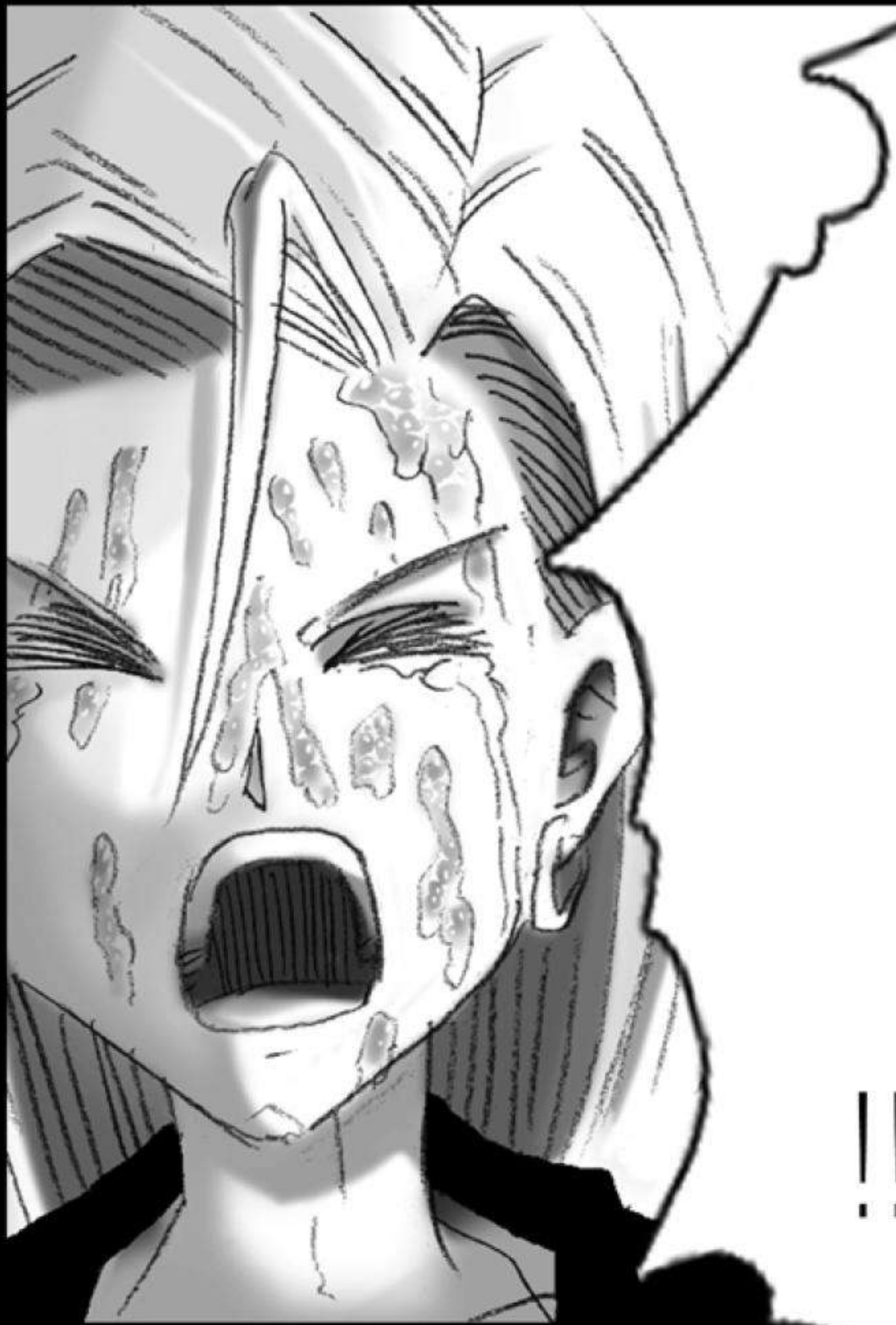
来るな



来るな

来るな .





来るなああああ——

!!!



外に出られた事は幸いだった・・・

だけど・・・

仲間を失った私に、

帰る場所などどこにも無かった・・・







家族 . . . か . . .



チッ



アキッ!!!

急いだ方が良さそうだな・・・



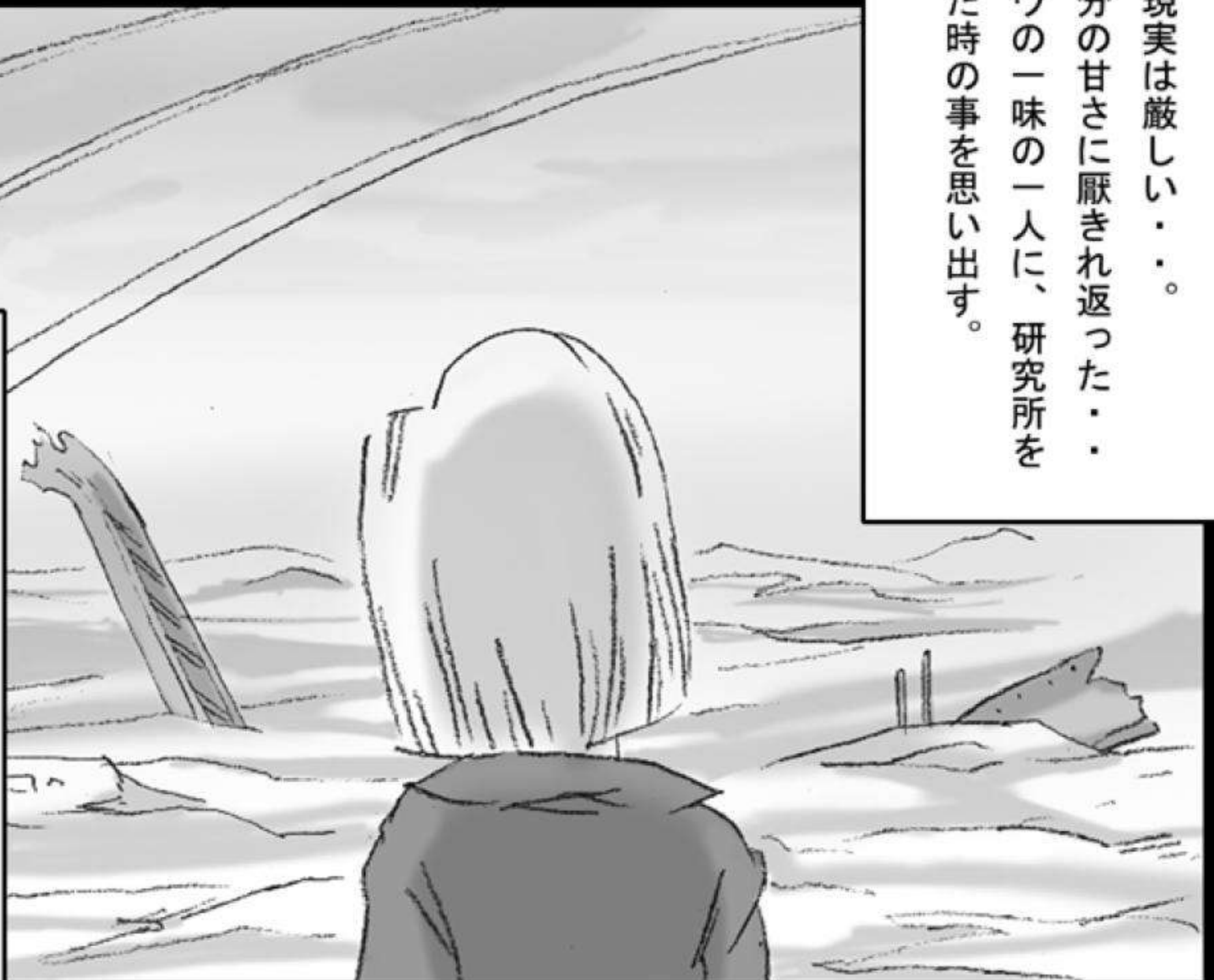
アキッ!!!

ドクター・ゲロの研究所……。

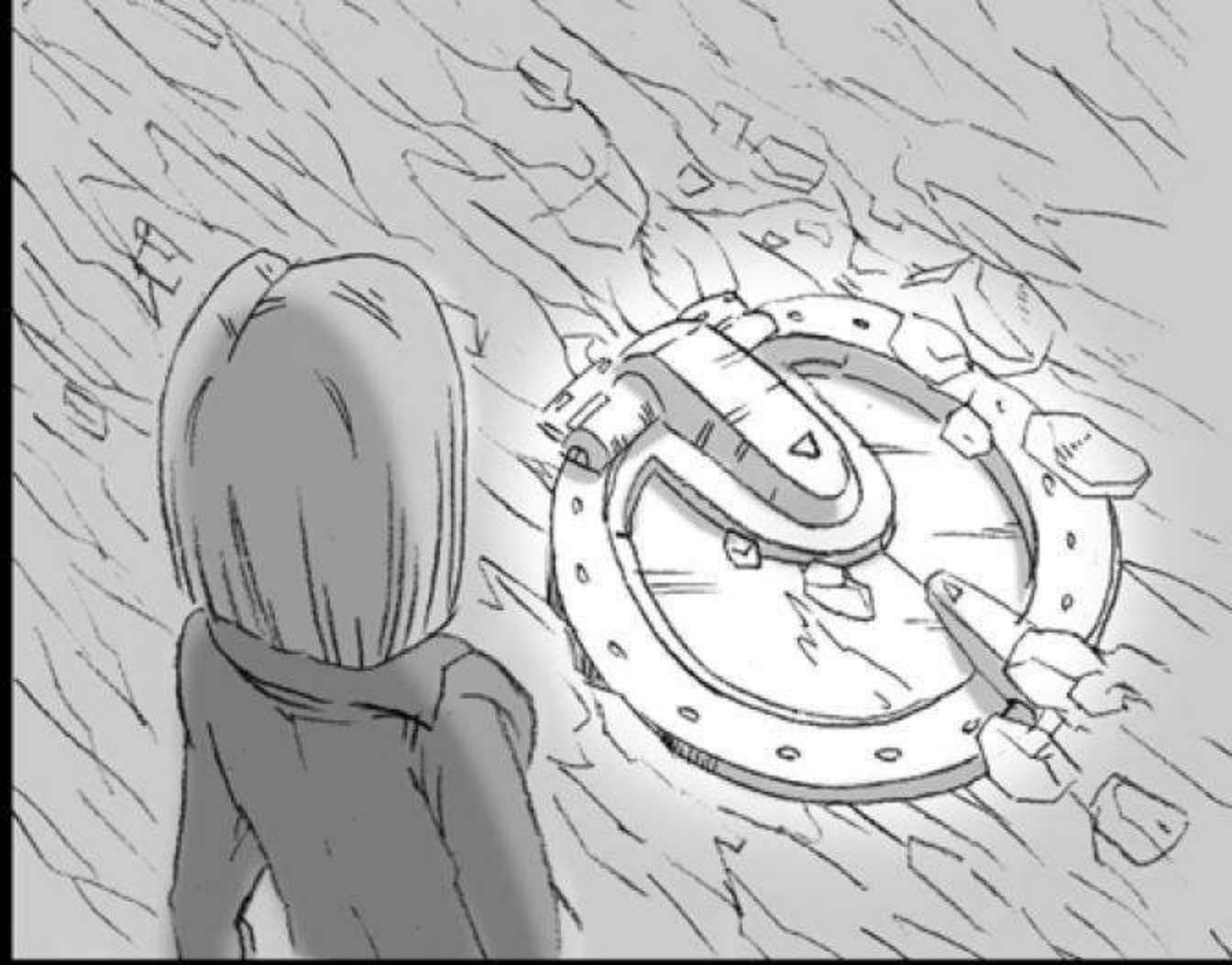


そこへ行けば、体の中を蝕む
奴のガキどもを始末する方法が
見つかるかもしれない……

しかし、現実には厳しい……。
同時に自分の甘さに厭きれ返った……
ソングクウの一味の一人に、研究所を
破壊された時の事を思い出す。



落ち着いて物事を考えなかった自分が
腹立たしく、そして悔しかった……。



だが、まだ望みはある
ようだ。
生まれて初めて、あの
ジジイに感謝した。

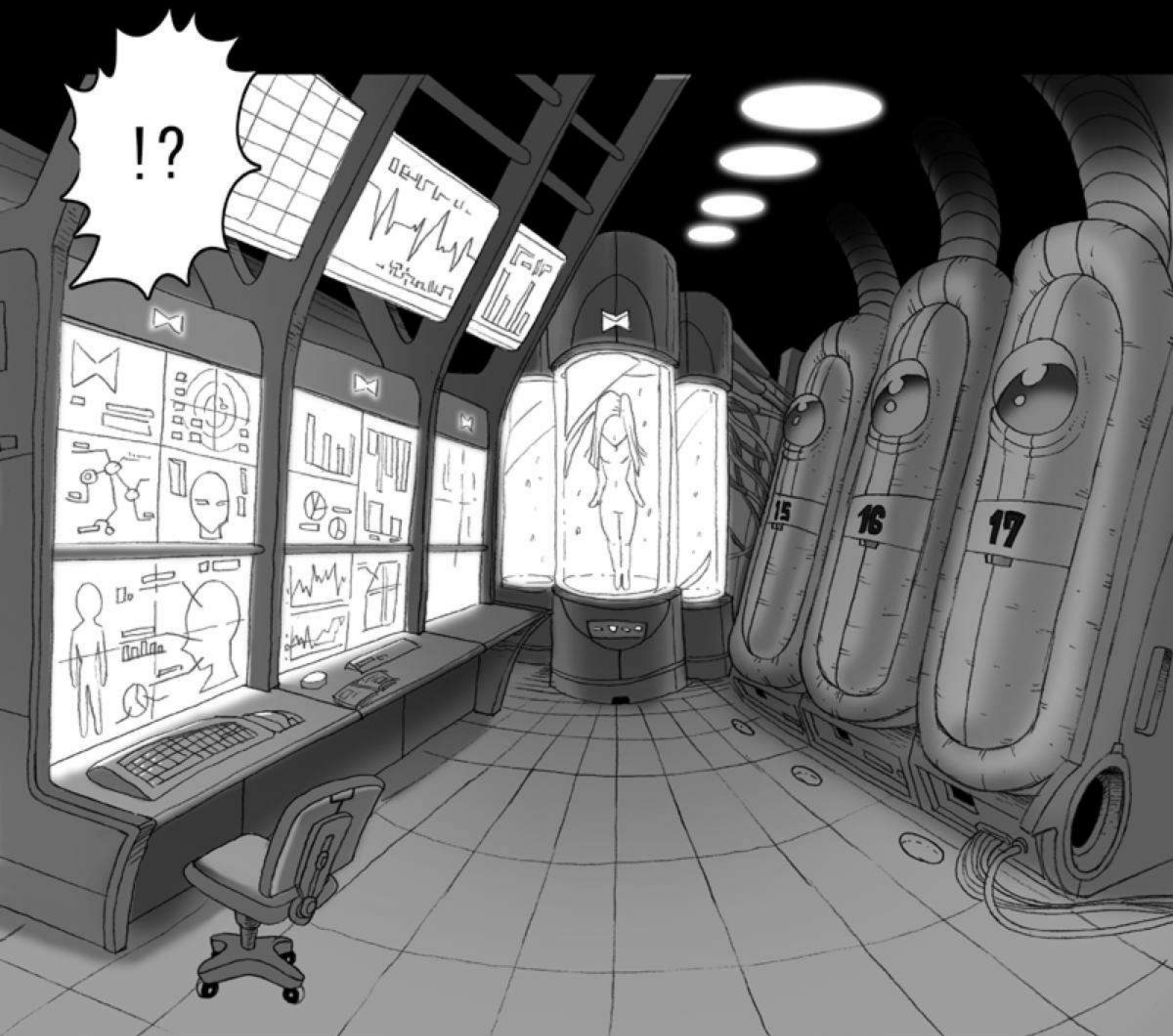
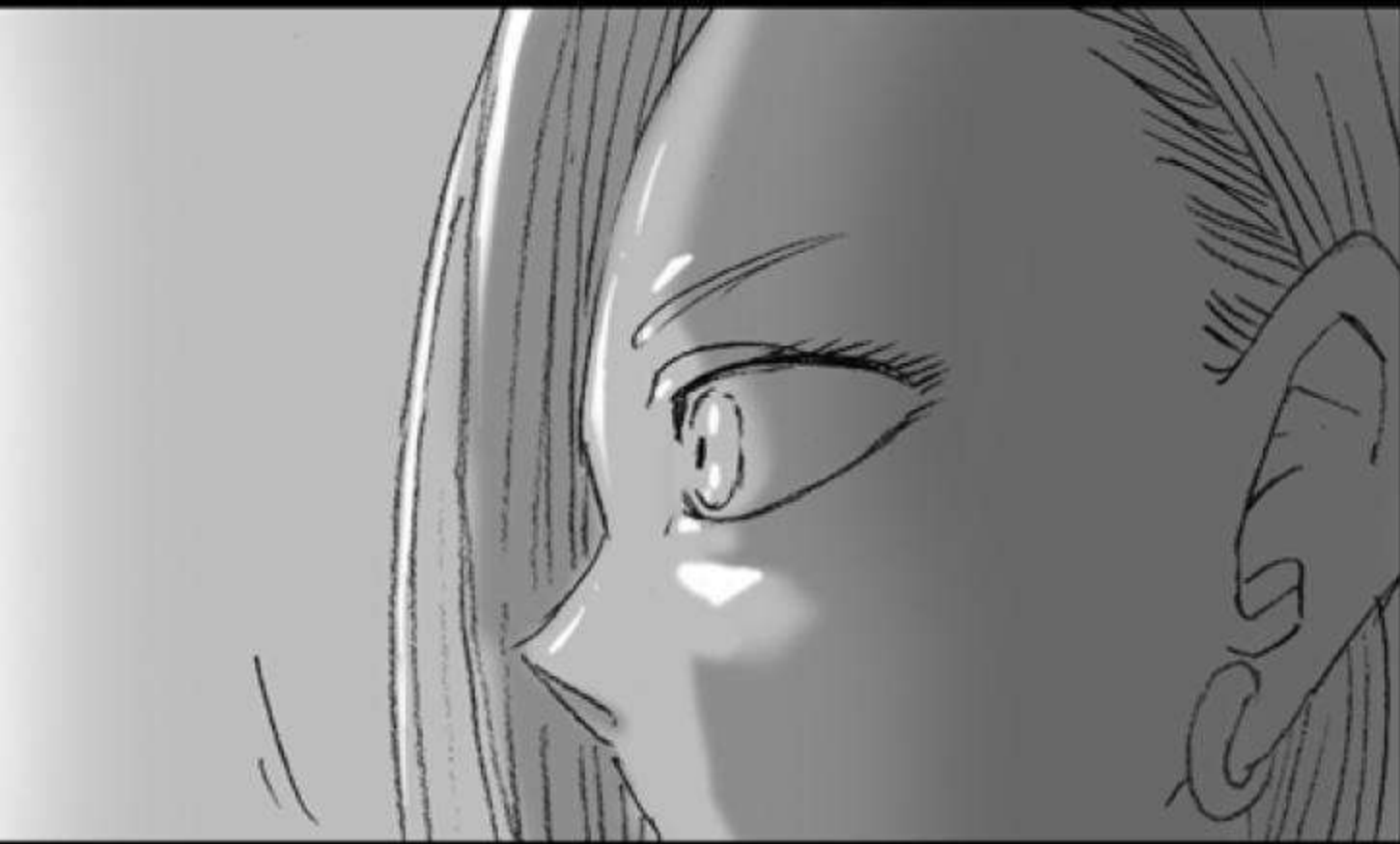


さっきのハゲの男は、どういう訳か
緊急停止用のコントローラーを手にしていた。
あれを自ら作り出したとは考えにくい・・・
きっと研究所内で設計図を見つけたのだろう。
もしそうならば、セルを止めるコントローラーの
設計図だって、きっとここにあるはずだ・・・

それで腹の中のガキも、
どうにかできるかもしれない・・・
同時に、セル本体の破壊も
不可能じゃない筈だ。



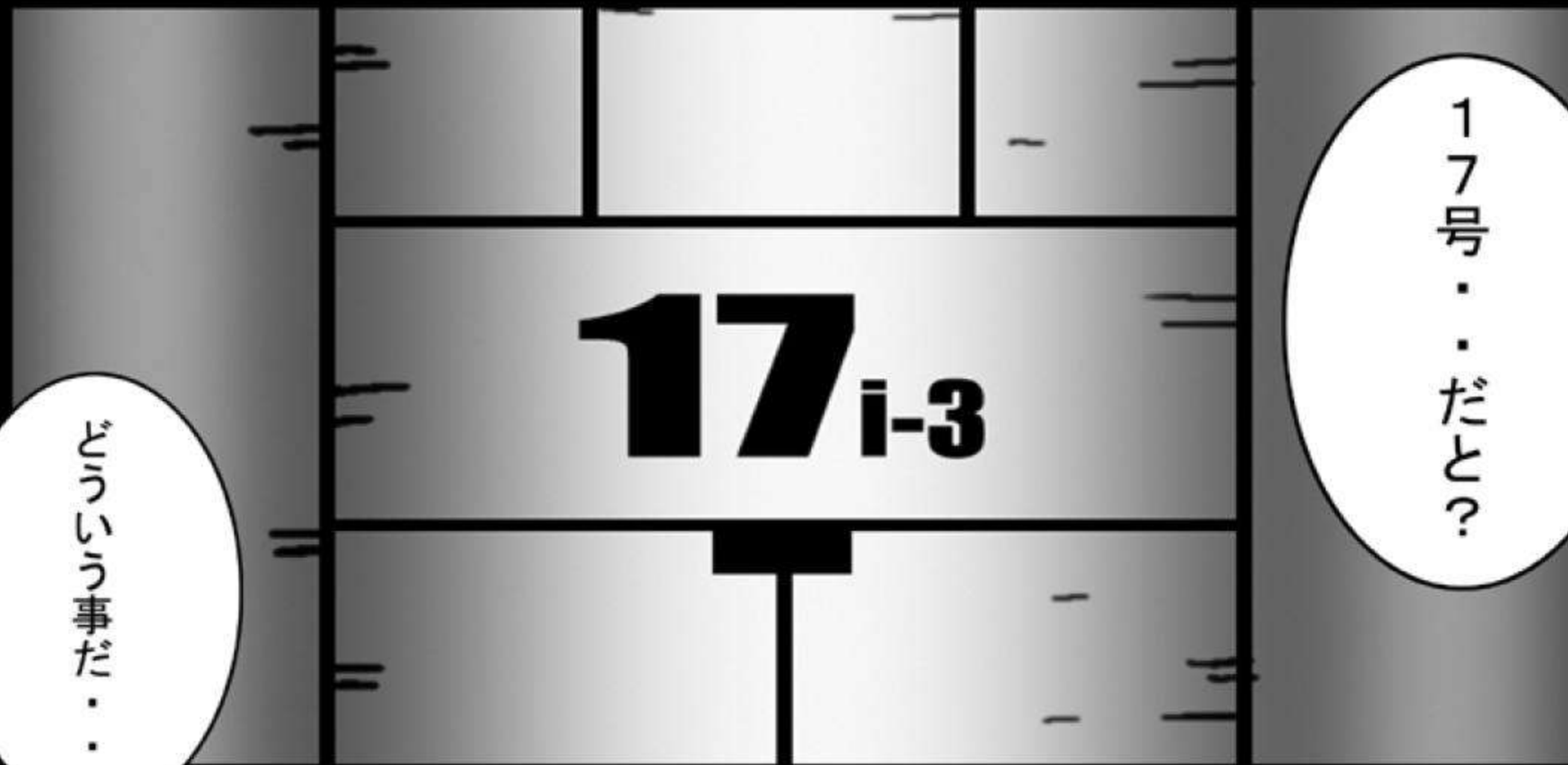
ザッ! ザッ! ザッ! ザッ! ザッ!





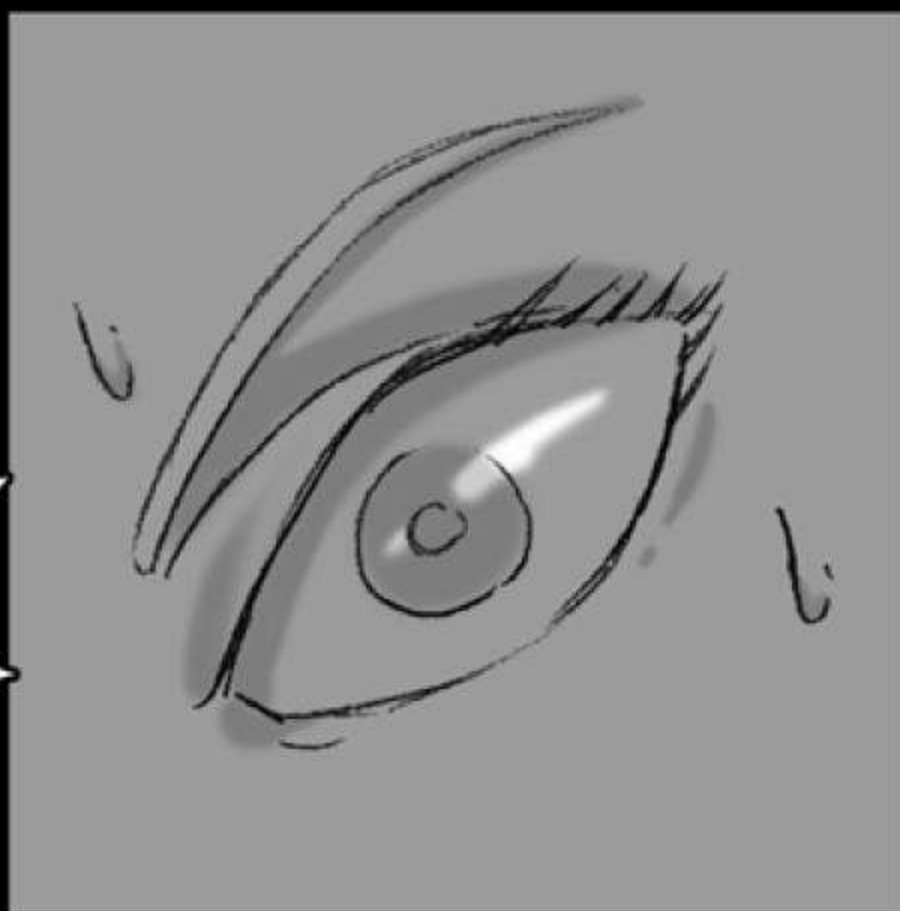
あのジジイ、まだ他にも
人造人間を作っていやがったのか。

これは……



17号……だと？

どういう事だ……



えっ……

こんな事が...

.....



17_{i-3}



きっと悪い夢を見ているに
違いない.....!!



16_{i-3}

15_{i-3}

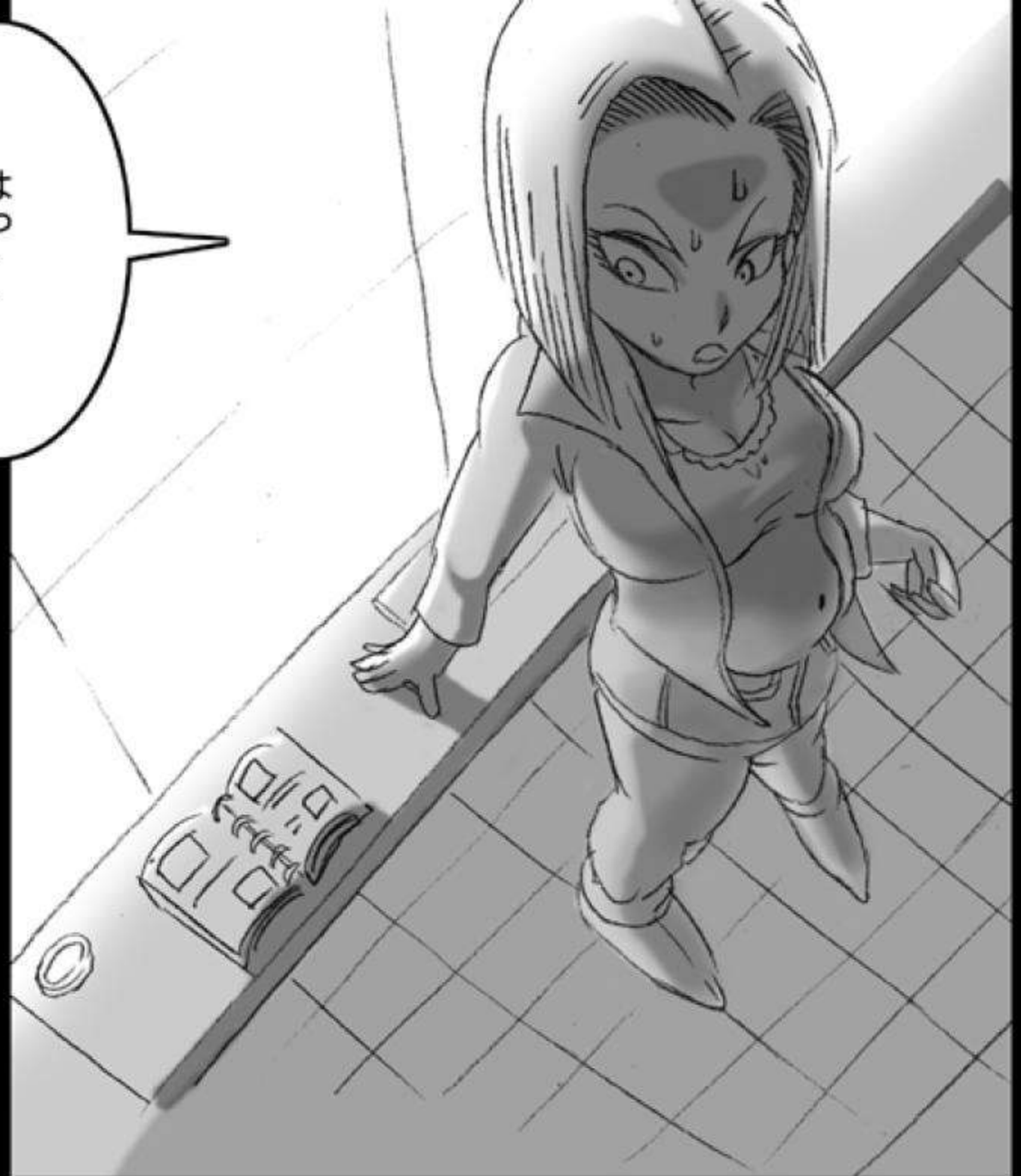
夢だ.....



はっ・・・

これは・・・

ドクターゲロの
研究日誌・・・



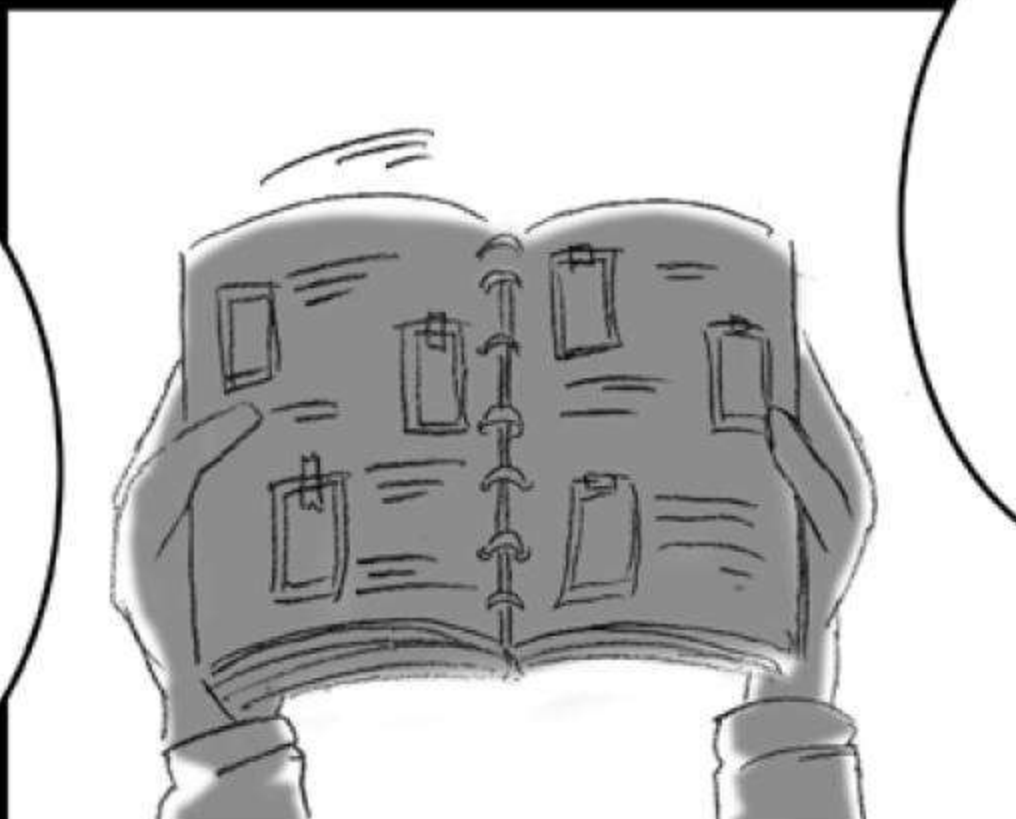
研究の日々は今日も続く。この体を手に入れた事で「睡眠」という壁の存在が消えた事は、研究の進度に大いに影響している。

先日、人造人間16号の製造をほぼ終えた事により、有機物・・・つまり通常の人間を素体とした戦闘兵器を生み出す研究に、より一層の力をいれていく事が可能となるだろう。

17号の素体として提供されてきた双子の姉弟だが、弟の方は身体共にバランスが良い。戦闘兵器という割には幾分小柄だが、16号のサポートとして働かせるには上出来だろう。

同時に、新たな人造人間の研究には必要無くなった姉の素体だが・・・処分するには少々惜しい。彼女の素体は「i-3計画」に回す事にした。

17号の素体・・・
私を・・・処分・・・？



i-3計画？
一体・・・何のことだ・・・

1-3 計画：本能 = Instinct

不可欠 = Indispensability

理想 = Ideal



人類の持つ究極の概念である「性」。

「性」におけるすべての欲求を具現化、及び対処する存在。

永遠の命を持ち続ける己の体の中には、同時に永遠の性欲も具わっている事は当然。それらを満たす為だけに存在し、そして己に忠実に仕えるパートナー。

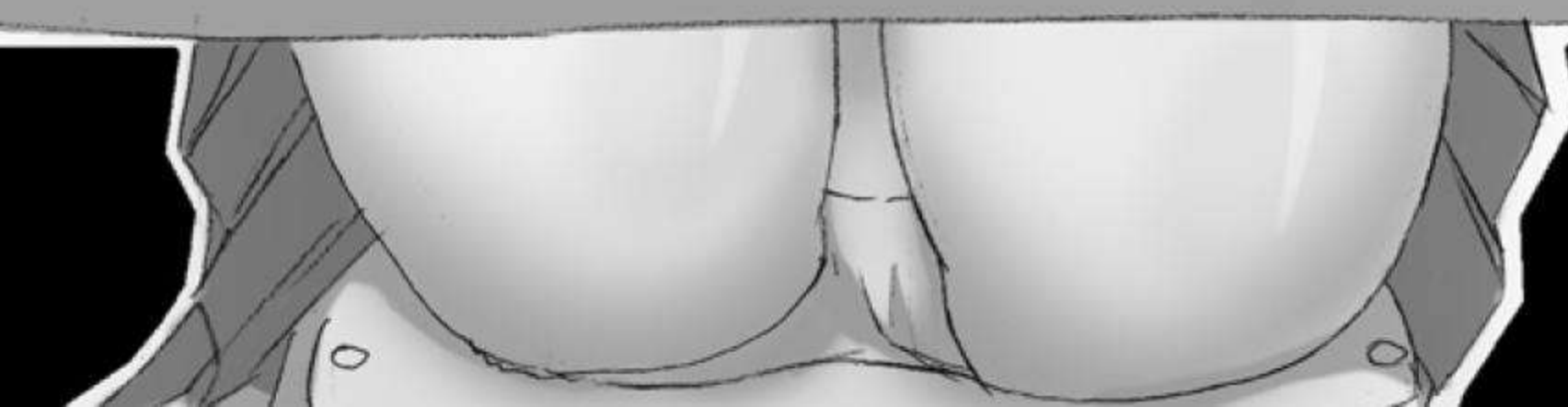
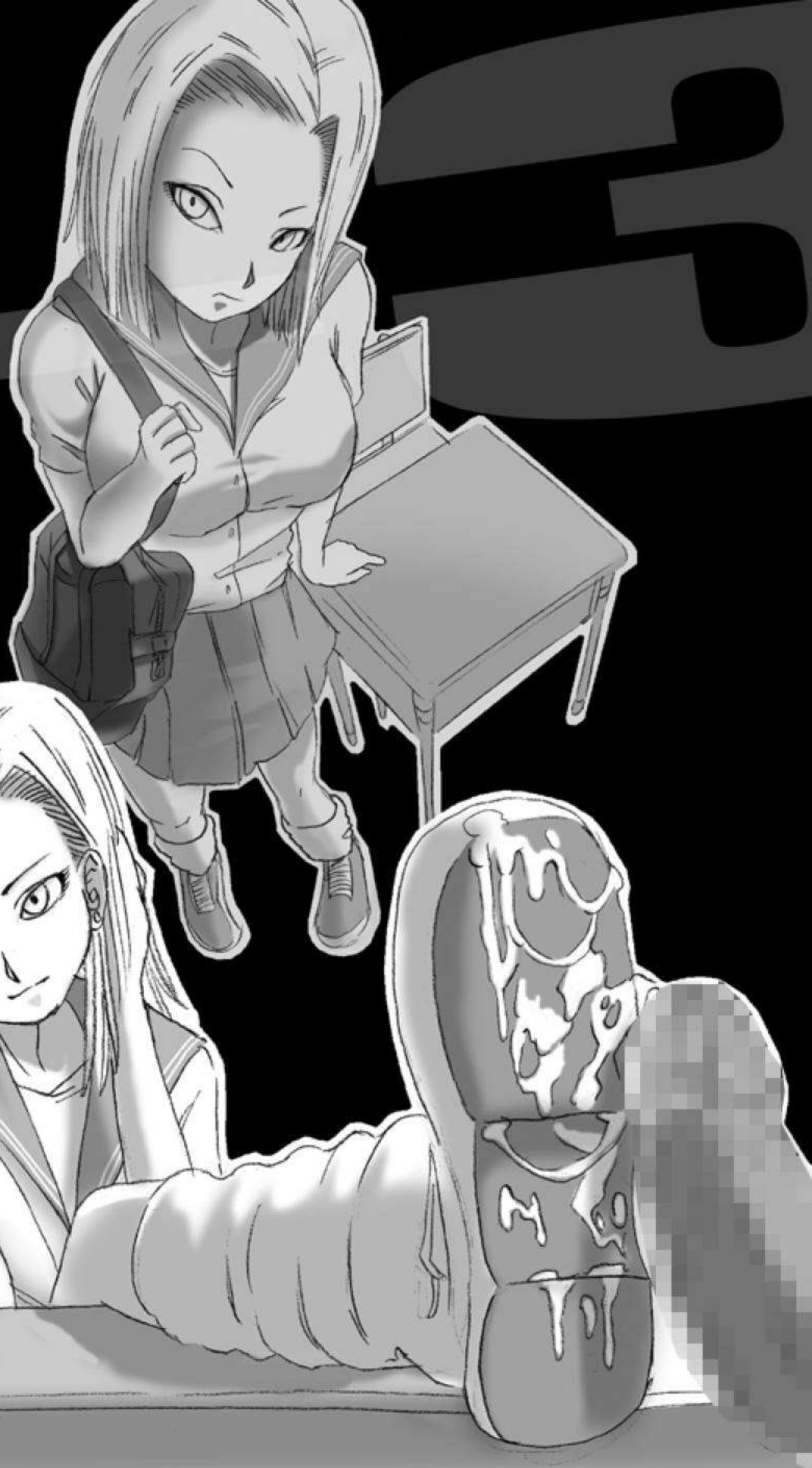
「1-3 (完全なる性の奴隷)」を人工的に生み出す事が、この計画の最終目標である。

「ω-1号〜ω-14号までは合計4体の女性素体により研究が進めてきていたが、
ω-15号以降からは人造人間17号の姉である彼女をベースに、
研究方針を固めてくつつもりだ。」



研究は順調に進んでいった――

「ワー15号」に
あらゆる改良を重ね、ついに
「ワー16号」を作り上げることができた。
彼女は、日常の事から性欲に至るまで、
どんな欲求にも素直に応じ、
女性にぶつける事でしか晴らせ無い
「男の欲」の全てを満たしていた。
それはまさに私の理想の女性像、そのものだった。



しかし悲しい事に、人造人間になろうとも
私は人間であり続ける。同時に欲もあり続ける。

「飽き」というものが訪れたのだ。





肉体の構造に関してはほぼパーフェクトだった。

しかし何か足りない。

本物の女性が持っている「何か」が足りないのだ。

従順な性処理ロボットなだけでは足りない・・・何か。



それは「安定」だけでは決して手に入らないもの。

それは、涙。

それは、苦痛に歪む表情。

それは、大切な何かを失った時にだけ見せる人間の弱みの部分。

「悲しみの心」だった。

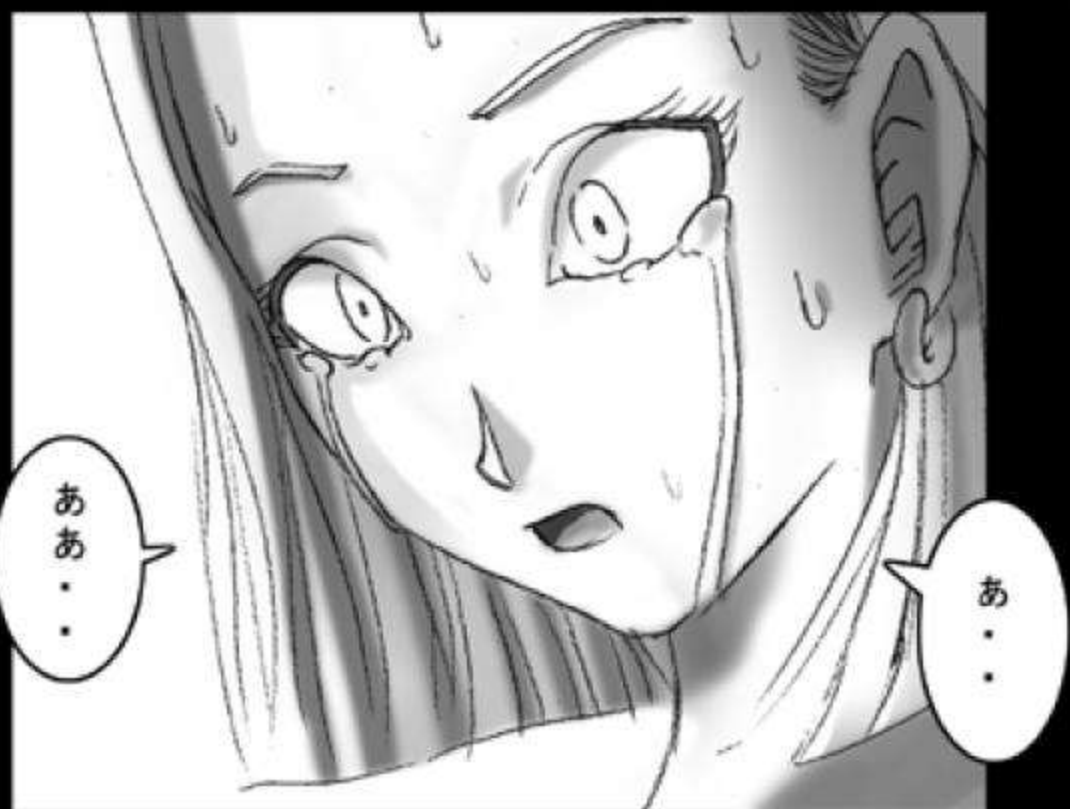
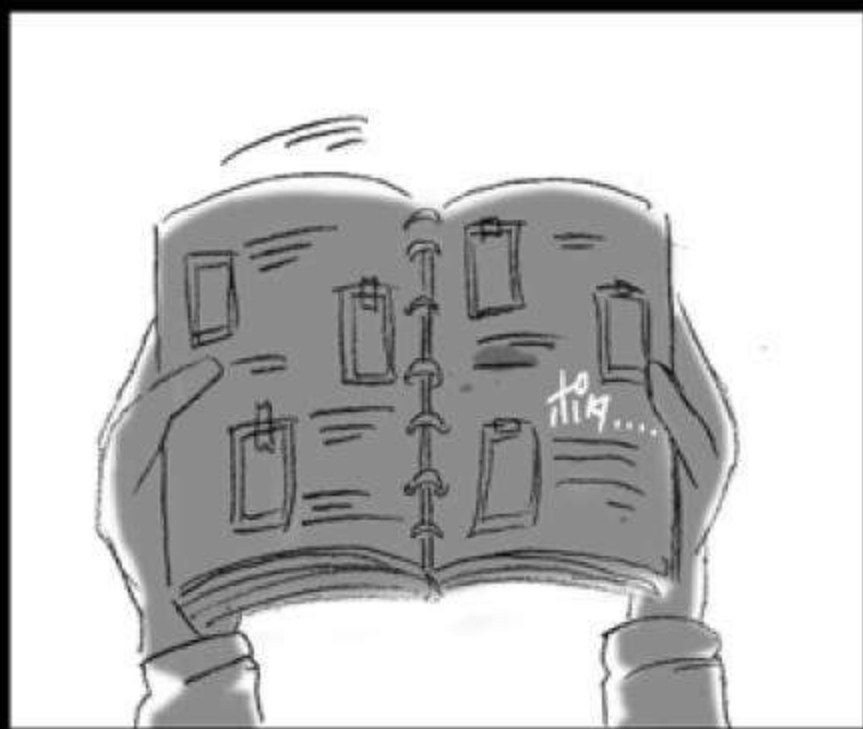
「悲しみの心」の研究を積み重ね、のちに生み出した「1317号」は、

今まで足りなかった魅力「心」を備え、私の欲求に答えてくれた。

強引な愛撫や激しい性交に対し、怯えきった表情に顔を歪ませ、

眉間にしわを寄せて涙を流す。

女の悲しむ顔を見ることは「安定による人間の飽き」をも打ち砕くほどの力を持ち、性の衝動を強く駆り立てていった。



「心」を制御するシステムは人造人間16号以前にはあまり詳しく取り込んではいなかった。よってこの研究成果は、実験的に人造人間17号にも採用した。

また、「人造人間計画」及び「二心計画」における18号の素体が未だ不確定だった事もあり、これも何かの縁だと、急遽二心計画の素体を人造人間18号の素体に回す事にした。

このまま二心計画を一人歩きさせるのもいいが、性欲を満たす存在の開発として動き出したこの研究は、もう十分な域に達していた。

また、この容姿を持ちながら人造人間化すれば最強の戦闘兵器であると同時に最高の性の奴隷が誕生するのだ。今まで以上に実戦的な存在になり得る。

素体が双子という事もあり人造人間17号、18号も、姉弟離れ離れにならずに共に私の部下になる事ができて幸いであろう。

弟は戦闘兵器として。

姉の方は、これからも私の性の奴隷としてたっぷりと働いてもらう。

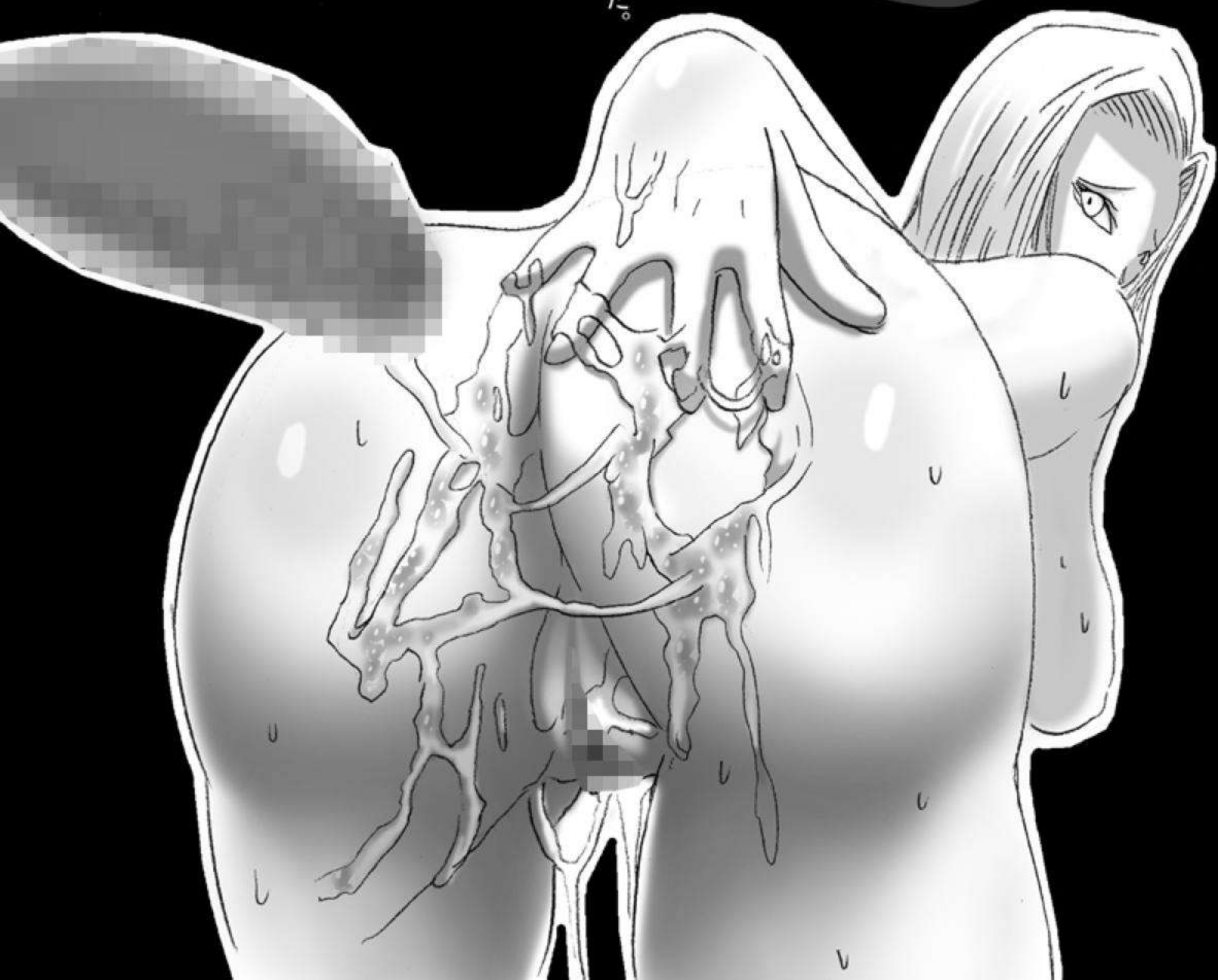
永遠に老いる事の無い体。そして永遠に枯れる事の無い

私の性欲を浴び続け、私の本能 (Instinct)

であり、また必要不可欠 (Indispensability) な、

理想 (Ideal) のパートナーとして

可愛がってやるつもりだ。



もっとも・・・

「飽き」という本能が訪れ、彼女が私にとっての唯一の i-3 では無くな
った時・・・。

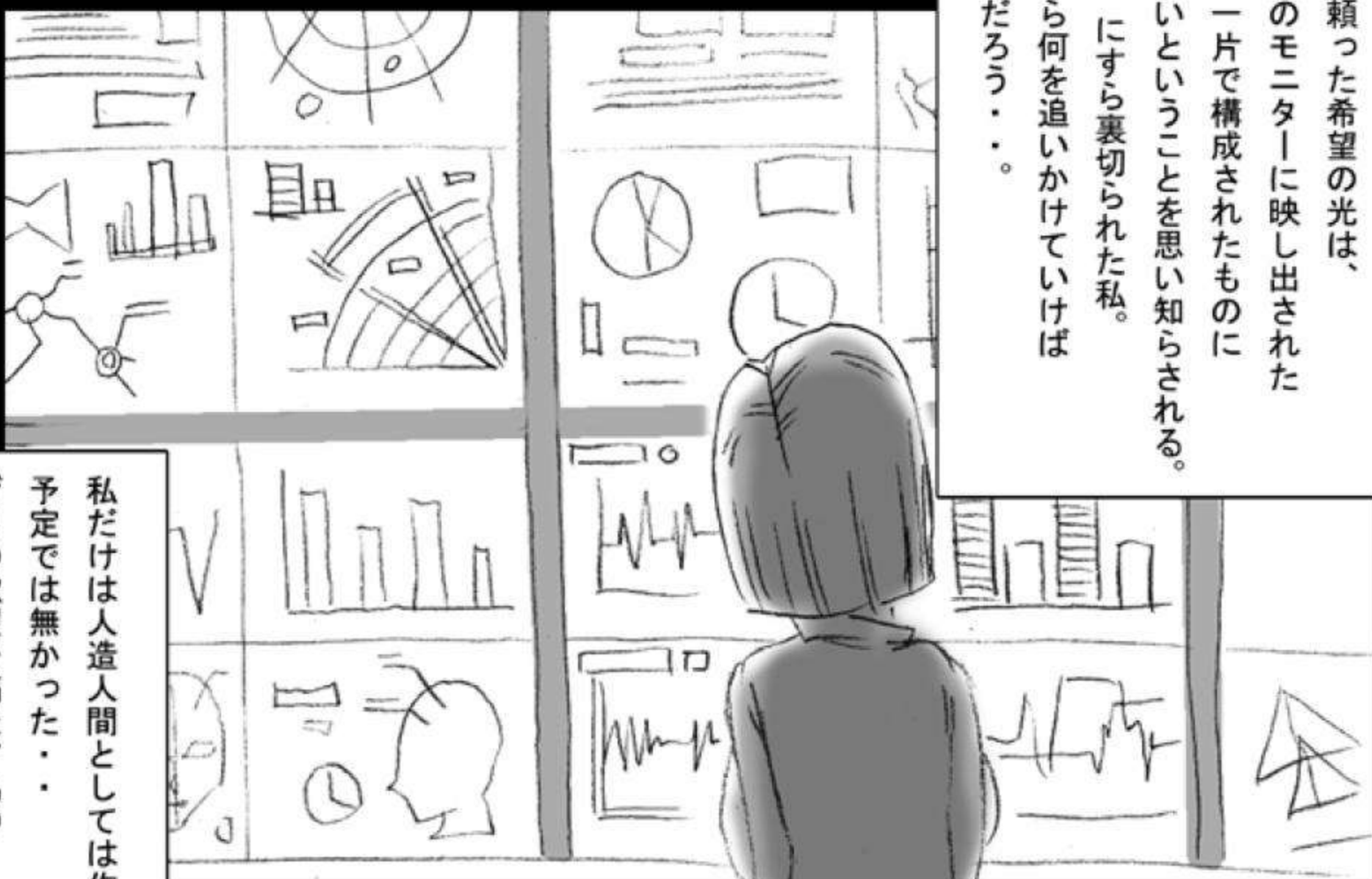
彼女にはただのゴミとしてまた寝てもらう事になる訳だが。
いずれ来るであろうその日までは、私の忠実な僕として
存分に働いてもらうとする。





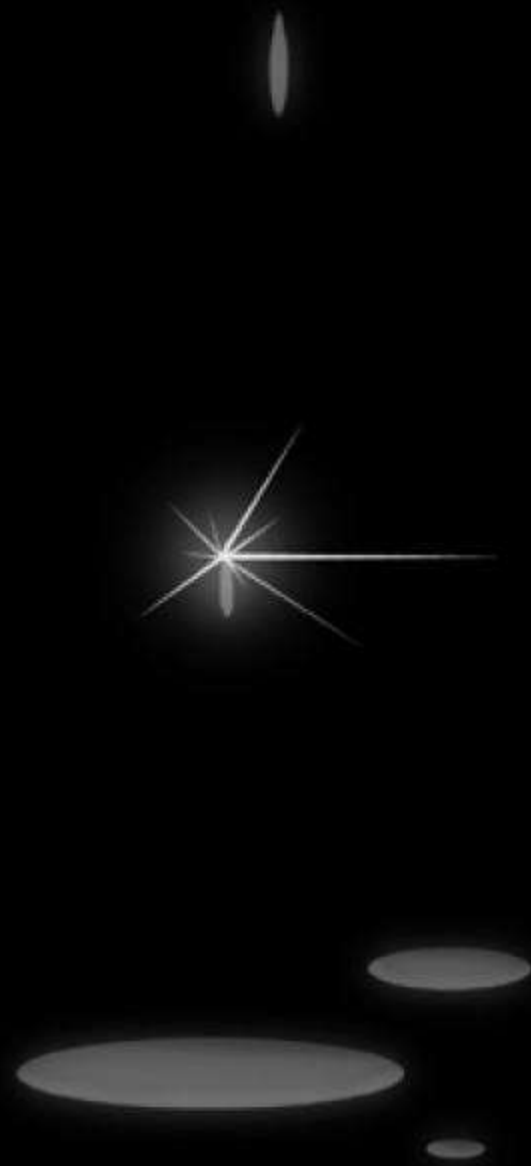
セルの忌々しい体内から抜け出し、
自分の内にある「希望」というもの
に、必死にすがり付いていた私。

しかし、それも作り物の心。
必死に頼った希望の光は、
目の前のモニターに映し出された
文字の一片で構成されたものに
過ぎないということを思い知らされる。
「希望」にすら裏切られた私。
これから何を追いかけていけば
いいのだろうか……。



私だけは人造人間としては作られる
予定では無かった……
ゲロの欲望を満たす為の
性の奴隷としてこの世に生まれた……

目の前に叩きつけられた真実



無常に頬を伝う涙。

その雫の源が「本当の心」であれば・・・と、
適わぬ想いをただただ願うばかりだった。



やはり「こ」だったか・・・



DRAGON ROAD
BASAEA'S BLOG

3

15

16

17



お久しぶりです。作者の、ばさらです。
お買い上げしてくださった方も、アップデートをしてくださった方も
どうもありがとうございます!超感謝ですよーっ

この企画にあたって『3』本編を読み返したのですが、途中で恥ずかしくなっていました(笑)
大学を卒業してすぐに描いた作品なので、『ああ、皆さん、温かい目で見てくださいだったんだらうなあ』なんて、
恥ずかしさと同時に、感謝の気持ちで胸がいっぱいに… 寝るのも惜しんで夢中で設定とか考えてたっけw

20号なんかは私の負の感情みたいなものをそのまま『強調した
キャラ』だったりするので、大嫌いだけど…憎み切れないなあ…
でも皆、そういう時ってありますよね?wムラムラした時とか(笑)
もちろん、18号やクリリンみたいな人間になれるんなら、
それが一番理想的なんですよケドモ

まあオナニーの時くらいはっ!妄想中くらいはっ!
変態さんになったっていいんじゃないかなあとが、思う訳ですよ
ーーーという訳で、今回もよろしくおねがいします~!





ワス…
してほしか、たんだろ？

ア…
…おんなも…

ハッ
ハッ
ハッ

ハッ
ハッ
ハッ

ドキ
ドキ
ドキ

ドキ
ドキ
ドキ



目を見ながら
うんちっ...♡

んっ...♡

トクン
トクン

トクン
トクン

ハッ
ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ





「んたいい...♡」
見んやろよ
そのトロた顔

ふふ...♡

ハッハッ

ハッハッ

ハッハッ

ハッハッ

キュン♡

キュン♡

キュン♡

キュン♡



ホラ♡
見てるぞ?...
見てる所
思い、きい見んわん♡

...

ゴッ...

ゴッ...

ゴッ...

ゴッ
ゴッ

ビッ

ビッ

ビッ

ビッ

ビッビッ

ビッ



スッキリした顔して…
えんなに良かったのか

どうせ明日には
またたまってるんだろ？
ふふふ



ツツツ

ツツツ

ツツツ

ビッ

ビッ

ビッ

ビッ

ビッビッ

ビッ



「かに蟹手」

「お前がさる」 6#6#J

ん

!!!

んがなこ!

ん

ん



おっ...
おっ...

アッ

おっ...
おっ...

ヤッ

んっ...
んっ...

クワン

クワン



ギョッ
ギョッ
ギョッ

ギョッ
ギョッ
ギョッ

ゴクゴク

ゴクゴク

ゴク

ゴク

ゴク
ゴク
ゴク

ゴク
ゴク
ゴク



びん

びん

おっ

おっ

ばんばん

ばんばん

おっ
おっ

おっ

ばんばん

おっ



まじっ

まじっ

まじっ
っ! っ! っ! っ!

まじっ

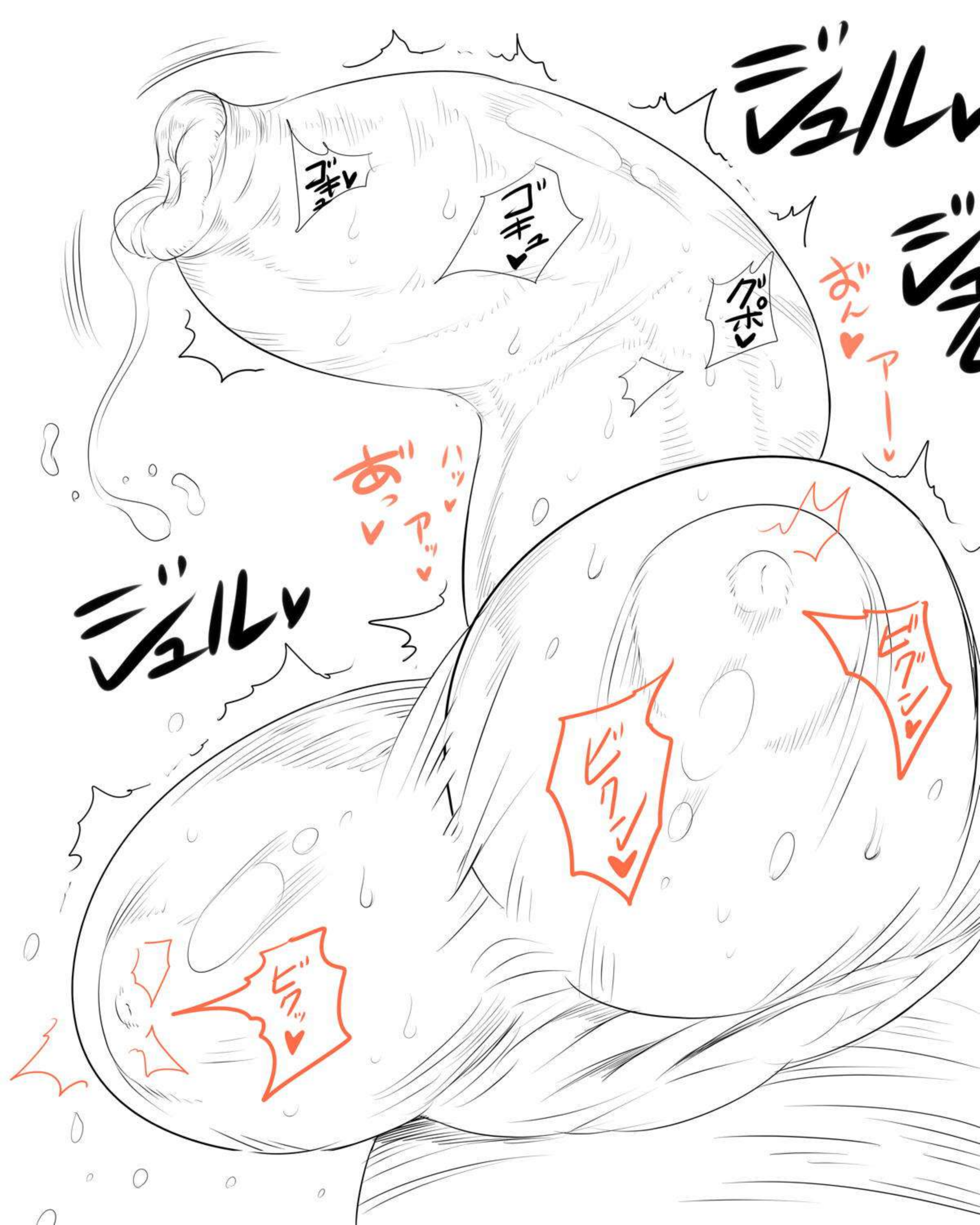
あッ!
っ!
っ!
っ!

まじっ

まじっ

まじっ

まじっ



ガッ

ガッ

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ
ガッ
ガッ
ガッ

ガッ

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ

ゴキブリ...v

ゴキブリ...v

ゴキブリ

ゴキブリ

ゴキブリ

ゴキブリ

ゴキブリ...vv



ゴキブリ...v

ゴキブリ...v

ゴキブリ

ゴキブリ

ゴキブリ

ゴキブリ

ゴキブリ...vv





びびび

びびび

びびび

びびび

Fennel

びびび

びびび

びびび

びびび

びびび

びびび

びびび